

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき、令和2年度に実施した、7つの大課題、24の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

評価委員氏名	
上田 味哥子	奈良県指導農業士会前会長
江口 充	近畿大学 副学長兼農学部長
鶴木 千里	前奈良県消費生活審議会委員
前田 伸一	奈良県指導農業士会会長
杉山 孝	奈良県食と農の振興部長

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	地域ブランド力を高める薬用作物生産技術の開発	抽苔しにくい優良品種の育成	4.0	3.2	3.4	10.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・選抜系統では近交系となり弱勢が発現する。その対応を明確にして進められるべきかと思う。 ・1年でも早く優良株を見つけ現場に出して欲しい。 				
		実需者の求める高品質な薬用作物生産技術の開発	4.0	3.4	3.6	11.0
	<ul style="list-style-type: none"> ・病虫害の発生は生育に影響を及ぼすが、なるべく農薬の散布回数は少ない方が良いので、散布の適期や適量を見定めて欲しい。 ・植え付け深度により主根形成に差があるというのは興味深い。農家がすぐに対応できる小さな操作で収益性をあげられる。簡単で役に立つ情報ですからマニュアル化を急がれた方が良い。 ・高品質に向けた定植苗及び定植時の条件が明らかになったと理解した。今後は、これらの条件を満たす普及技術を開発していただきたい。 					
	単味製剤原料向けトウキの省力栽培技術の開発	4.0	3.6	4.0	11.6	
		<ul style="list-style-type: none"> ・除草は大変な作業なので、時間が短縮できるのは大変良いと思う。作業効率が良いと植え付け面積も増やせると思う。 ・局方基準に適合していることを確認しているという点で有意義な研究と言える。 ・単味製剤の承認が得られたことから、生産技術の改良による収量増に対する期待が大きくなっている。スピード感をもって、計画的な研究に取り組まれるよう期待する。 				
宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	3.8	3.2	3.6	10.6	
	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入薬草が手に入りにくくなるかもしれないという話を耳にしたことがある中で、国内産の薬草栽培が増えるのは良いことだと思う。 ・得られた結果に対する考察をもう少し掘り下げて行った方が良いと思う。例えば、「ヒロハセネガは黒マルチを用いることで欠株が抑えられ増収することを確認」とあるが、この原因（メカニズム）が分かれば他の植物への応用性も広がる。 ・現場にあった栽培マニュアル及び面積拡大の方法も含め研究を進めて欲しい。 					

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
優良品種 の育成	奈良オリジナルの 優良品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	5.0	4.6	4.8	14.4
		<ul style="list-style-type: none"> ・他県でもイチゴの品種がいろいろと出されている中で、奈良ブランドの品種があるのは、より多くの消費者の好みに合わせた味覚のバリエーションが提示できるので期待も大きい。 ・加工品に適した視点で育種を行うというのは良いと思う。品種改良による品質向上もある程度のところで限界に達するのかもしれない。次の一手をどうするのかといった戦略的な考え方も重要になってくるように思う。 ・ブランド価値を高め、競争力を確保するためには、用途を見据えた改良が必要と考える。 				
		需要期に安定して開花する小ギクや特色ある奈良ブランド菊の新品種の育成	5.0	4.4	4.4	13.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・盆や彼岸に合わせて出荷できるのは良いことと思う。近年、キクの花のイメージが、和から洋へと変わってきていると思う。フラワーアレンジに使い易い形状や色などもあれば良いと思う。 ・品種改良の明確な目標を掲げているので、将来の県内キク産地の振興を見据えつつ、真に必要な品種育成に取り組まれない。 				
		新たな高品質甘柿品種の育成	5.0	3.6	4.4	13.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・他県のカキの産地との差別化を図る為にも、奈良県のオリジナルの品種は必要と思う。 ・もともと年月のかかる仕事である。バイオテクノロジーやマーカー選抜をうまく利用し、育種を加速させている点は素晴らしいと思う。 ・生産者と連携した新品種育成検討会はいいい取り組みと思う。成果を出すには相当の期間を要するが、常に産地や市場のニーズを確認しながら、計画的に研究を進められることを期待する。 				
	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.0	4.0	4.0	12.0	
	<ul style="list-style-type: none"> ・海外での酒ブームの高まりがある中で、奈良県の品種が出来れば、よりアピールしやすくなると思う。 ・交雑育種に基づく個体選別が地道に続いており素晴らしいと思う。奈良県での育種なので、奈良の土壌や気候に合った良い酒米ができることを期待している。奈良は清酒発祥の地なので、奈良県の酒蔵と連携して事業を展開して頂ければと思う。 					
遺伝資源の 保存と活用	奈良に歴史にゆかりのある遺伝資源の保存と活用	3.8	3.4	3.4	10.6	
	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝資源の保存は重要な事業である。令和元年度よりも数が増え、活動が順調に行われていることが拝察できる。ただ、この手の仕事は成果が見えにくく評価しづらい。事業自体の重要性を疑うものではないが、国の事業との棲み分けやコストなどとの兼ね合いを考えながら奈良県としてのジーンバンクの規模を考えていくべきだと思う。何か新しい作物の作出というときにジーンバンク事業は威力を発揮する。 ・奈良県として大切な研究であり、現場にうまくつないでほしい。 ・地道な取り組みですが、固有種の確保には不可欠な取り組みと考える。また、保存してある遺伝資源を用いた奈良オリジナル品種の育成に向けた取り組みの充実も期待する。 					

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良の特産品を用いたオリジナル加工品の開発	渋柿を原料とする糖蜜漬けの製造技術の開発	4.4	3.4	4.0	11.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・柿の加工品を作るのは、「奈良の柿」の認知度を上げるのに必要だと思う。安定した良い商品になるよう期待する。 ・糖蜜漬けが様々な形で加工され、おしゃれなスイーツになることを楽しみにしている。 ・自然災害やコロナ禍など、生果だけに依存するビジネスモデルはリスクが高いことから、加工品の開発に対する期待は大きい。定期的にニーズ把握を行い、売り方を意識した研究を進められることを期待する。 				
		柿葉を利用した後発酵茶の開発	4.0	4.0	3.6	11.6
	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の健康に対する意識の高まりの中、機能成分の表示のあるなしで、売れ方も変わると思う。後発酵茶は、個性の強い味のように好みは分かれると思うので、特に機能成分が必要ではないかと思う。 ・廃棄するものを上手く商品化して利益に結び付ける研究は重要である。できるだけ利益率の高い加工品を生み出すことが重要になる。 ・出来れば万人受けする味をめざして、体に良くて飲みやすいお茶を開発して欲しい。 ・他の茶との差別化は必須だと思う。かなりエッジの効いた味を追求するのもありかと思う。 					
	加工適性を高める栽培技術の開発	素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜	4.2	4.4	4.6	13.2
		<ul style="list-style-type: none"> ・三輪素麺というブランドが確立されている中で、県産小麦を使用しているのはより付加価値をつけられる。パン食の人にも十分アピールできると思う。 ・三輪素麺業者や製パン企業が奈良県産のオリジナルパン小麦を使えそうであると答えているので、今後に大いに期待できるかと思う。 				
ワインに適したブドウ品種の果実品質研究		4.0	3.4	3.4	10.8	
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良のワインができるのは楽しみである。飲食店等にも良い宣伝になると思う。良いブドウが出来る地域が確定することを願う。 ・自然条件的に難しい面があると思うが、奈良県より南西部の県でも地場産ワイナリーはあると思うので、成果が出ることを期待する。 						

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
高品質に繋がる生産技術の開発	機能性を向上させる生産技術の開発	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発	4.0	3.6	3.6	11.2
		<ul style="list-style-type: none"> ・ルテインを1日に10mg摂取すれば良いと言われている点を強調し、焦点を絞ってみても良い。目に良いとされるルテイン含量を高め、機能性を高めることで大和野菜としての価値を高めることができる。 ・大和野菜の競争力確保のために、ルテイン含量を向上させる平準化技術を開発し、普及に繋がることを期待する。 				
高品質に繋がる生産技術の開発	輸出处向け生産技術の開発	輸出需要向け茶生産技術の開発	4.8	3.8	3.4	12.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内でのお茶の消費が減少傾向にある中で、輸出は大変良いことである。より一層の有利販売に向け、品質向上は重要である。 ・光利用で軽減できない病害虫への対応策を明確にしていくことが大事である。 ・今後も研究を進め、大和茶のブランドを伸ばしてほしい。 				
安定生産技術の開発	環境変動に対応した安定生産技術の開発	吸湿剤を使って低コストに施設内の温湿度を調整するシステムの開発	4.0	3.4	3.6	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内の温湿度の調整は難しく、作物によって、過湿による病気の発生もあるので、この設備があればいろいろと管理が楽になる。 ・おもしろい研究であり早く現場にはいるとありがたい。 ・実用化に向けて、企業との共同研究を進められたい。将来的には、環境の自動制御と連動したシステム開発が求められると思う。 				
		遺伝子診断技術によるキク、トマトなどの重要病害診断技術の開発	4.8	3.8	3.8	12.4
		<ul style="list-style-type: none"> ・野菜作りにおいて重要病害による被害は深刻である。一種類の農薬を続けて使っているのか、間に違う薬剤を使った方が良いのか、その辺りも含めて教えて欲しい。 ・病気は出てからでは遅いので、このような地道な研究は重要だと思う。薬剤の効果については、奈良県における病原菌レースの多様化を常にモニタリングしておけるような簡易マニュアルを作成し、継続的に調査をしておくことも重要かもしれない。 				
安定生産技術の開発	環境変動に対応した安定生産技術の開発	計画出荷に不可欠なキクの開花予測技術の開発	5.0	3.8	4.2	13.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・近年の気象の変化が大きく、予測のつかない気温の変化により開花時期の判断がつきにくくなっていると思う。A Iがその補助になれば農家も出荷時期が読めるので良いと思う。 ・昨年度から順調に成果やデータを蓄積されているように思う。この調子で引き続き遂行されたら良いと思う。 ・今後、A Iを用いた技術が不可欠となることが想定されることから、成果が出ることを期待する。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
省力化技術の開発	生産者に優しい生産技術の開発	脚立を使わないカキの低木栽培技術の開発	4.0	3.4	3.4	10.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・低木栽培により、作業効率と安全性が確認できれば、これからの若い世代の人達は、より安全に作業ができ長く栽培を続けられ産地を守っていけると思う。 ・良い研究であり早く現場に投入できればと思う。 ・現在は生育状況の評価の段階だが、研究には相当の年月を要することから、果実品質への影響も併せて確認することが必要だと思う。 				
		障害者が活躍できる「農業」成立条件の提示	4.2	3.4	3.2	10.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者やコーディネーターが農作業のどの分野で障害に応じた適性が見つけられるか、作業内容を知ってもらうのは良い。そこからのガイド活用が広がることを望む。 ・重要な課題であるが、もともと研究的に行えるものではないように思う。自治体としての目標を達成されるように継続的に取り組まれることを期待している。 				
		女性に優しい農業機械の開発	4.4	3.4	3.4	11.2
<ul style="list-style-type: none"> ・女性のみではなく、農業をするすべての人の体への負担の軽減と作業の安全性を高めるのに、いろいろな工夫をするのは大事である。金額の点で買いやすい値段であればなお良い。 ・現場への導入を考えると、低コストが必要なので、コスト面も意識した研究を期待する。 						

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
環境保全型農業技術の開発	環境に優しい生産技術の開発	天敵を利用した防除体系の安定化	5.0	4.0	4.0	13.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・天敵の利用は減農薬につながり、消費者へのアピールとしては良いことである。しかし、同時に発生する他の病害虫に対し、どのような農薬がどの程度使用できるのかを知りたい。 ・害虫の生物的防除は難しいと思う。このような研究の積み重ねが重要だと思う。 				
	有機農業に活用できる技術の開発	有機野菜の総合的害虫管理技術の確立	4.6	3.8	3.8	12.2
		<ul style="list-style-type: none"> ・軟弱葉菜類のキスジノミハムシの被害は例年大きいものがある。ハウスはもちろんのこと、露地栽培にも活用できる技術があれば知りたい。 ・メッシュの目合を小さくしたときの問題点の解決策が必要かと思う。 ・有機野菜の生産拡大を目指していることから、成果が出ることを強く期待する。現場への導入を考えた場合、コストや高温対策など、デメリットの解消策も視野に入れる必要がある。 				
	土壌改良に活用できる技術の開発	水田転換圃場の土壌改良技術の研究	4.8	3.2	3.2	11.2
		<ul style="list-style-type: none"> ・土壌条件の把握は、農作物を作る上で欠かせない情報である。 ・特定農業振興ゾーンという新しい枠組みの中で出てくるであろう様々なテーマを解析し、モデル化することで同様の地域を拡大していけるのかもしれない。この様な総論的な研究課題も重要だと思う。 				